

チュートリアル課題 肺に影が見つかった

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-09-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京女子医科大学 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032337

2014年度 Segment. 4

課 題 No.6

課題名：肺に影が見つかった

課題作成者： 第一外科学
第一病理学

神崎正人
澤田達男



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。

シート1

坂田圭三さんは、72歳の男性です。普段から、健康には自信がありました。区から検診の連絡があり、近くの
医院で検診を受けました。

気軽な気持ちで検診を受けたところ、“胸部エックス線写真で肺に異常な影があり、精査が必要”との結果で
した。たばこが好きでやめられなかったこともあり、もしかして癌かもしれないと心配になりました。

シート2

坂田さんは東京女子医科大学病院呼吸器センターを受診しました。担当医から、「レントゲン(エックス線)写真で、右の肺に気になる影が認められるので、胸部CTを施行して、もう少し詳しく調べてみましょう。」と説明されました。

シート3

さらに、担当医から、「痰を採って顕微鏡で調べたところでは異常な細胞は認めませんが、診断をはっきりさせるため、気管支鏡で、気管支を観察し、細胞を採って病理検査をすることががが必要です。」と説明を受けました。

後日おこなわれた気管支鏡検査では、可視範囲に異常はなく、経気管支肺生検、擦過細胞診を施行されました。

また、他に、頭部MRI、腹部CT、PETを予約しましたが、坂田さんは、「なんでこんなに色々検査をしなければならぬのだろうか？」と疑問に思いました。

シート4

検査結果を聞きに受診すると、担当医から、「気管支鏡検査で悪い細胞が認められ、頭部MRI、腹部CT、PETでは他の臓器には転移していないので、手術したほうがいいです。」と説明されました。

坂田さんは、「手術しないで済む方法はないのですか？」と聞きましたが、「化学療法や放射線治療もありますが、手術で悪い部分をとるのが、最も確実です。最近では胸腔鏡といって内視鏡を使って小さな創で体に負担の少ない手術ができ、手術後の回復も早いです。」と説明を受け、手術に同意しました。

呼吸器外科に入院後、右肺上葉切除術、リンパ節郭清術が行われました。術後は経過良好で第8病日に退院しました。

シート5

病理検査の結果は、原発性肺癌でした。主治医からは、「顕微鏡で病理検査を行ったら、リンパ節に転移しているの、少し進行しています。今後のことを考えると手術後体力が回復したら化学療法や放射線治療を行ったほうが良いと思います。」と説明されました。